

人事委員会議事録（第1622回）

1 開催日時

令和元年11月27日（水）16：55～17：50

2 開催場所

兵庫県人事委員会 審理室

3 会議に出席した者

委員	松田直人	委員長
	鈴木尉久	委員
	長尾真	委員
事務局職員	西村嘉浩	事務局長
	森本剛史	任用課長
	古川卓哉	給与課長
	門田高弘	任用課副課長兼総務審査班長
	小倉豊道	給与課副課長

開 会

第1号議案

議事録の承認を求める件

人事委員会議事録（第1621回）について審議の結果、原案どおり承認した。

第2号議案

公立学校職員等の退職手当に関する条例第13条の7第1項に基づく兵庫県教育委員会からの意見照会の件

任用課長が、標記照会に対する回答を説明し、審議の結果、原案どおり承認した。

（委員からの意見）

裁量権の逸脱・濫用があるかどうかという判断基準は処分後の事後チェックの場合には適当だが、今回の意見照会は処分前である。「異議なし」という結論には異存はないが、判断基準には違和感がある。

（委員長からの意見）

判断基準については、今後事務局で精査をお願いする。

（委員からの質問）

懲戒処分は行わないのか。

（事務局）

1年ごとの短期雇用のため、非違行為時の任期はすでに満了（退職）しており、非違行為の時に遡って処分することはできない。

第3号議案

審査請求の受理及び審査長の指名の件

任用課長が、令和元年 11 月 20 日付けの審査請求を受理するとともに、鈴木尉久委員を審査長として指名することを説明し、審議の結果、原案どおり決定した。

第 4 号議案

障害のある人を対象とする採用選考試験最終合格者決定の件

任用課長が、標記試験の最終合格者（案）を諮り、決定されれば 11 月 29 日に合格発表を行うこと等を説明し、審議の結果、原案どおり決定した。

（委員からの質問）

知的障害者が試験で不利になっているという印象があるがどうか。

（事務局）

今回の試験では、採用予定人数の関係から合格者がなかったが、知的障害者でも採用できる方がいるという印象を受けた。

（委員からの意見）

障害の特性が原因であれば、試験方法についても、障害の特性に配慮した方法を工夫することも考えられるのではないか。

（事務局）

今回の面接では、知的・精神障害に詳しい保健師 1 名に面接員として参加してもらったが、その評価結果は我々と大きな違いはなかった。ただ、今後も知的障害者の方が合格しないことが続けば、対応を考える必要がある。将来的な課題だと考えている。

第 5 号議案

就職氷河期世代を対象とする職員採用試験（社会人経験者）実施要綱決定の件

任用課長が、標記要綱（案）を説明し、審議の結果、原案どおり決定した。

（委員からの質問）

35歳から45歳というのは、何か基準があるのか。

（事務局）

国の就職氷河期世代支援プログラムの設定（35歳～44歳）を参考に設定している。

（委員からの意見）

職員の年齢構成からみて、ちょうど職員数が少ない部分と合致する。

（委員からの質問）

申込者が非常に多くなるのではないか。

（事務局）

すでに県内では先行して実施した自治体もある。また、今日の新聞記事で、国も早ければ今年度から実施するとしたこともあり、予想は難しい。

報告事項 1

看護師等採用候補者選考試験（第 3 回）の実施結果

任用課長が、標記試験の実施結果を報告した。

報告事項 2

看護師等採用候補者選考試験（令和2年度）の実施予定

任用課長が、標記試験の実施予定を説明した。

（委員からの質問）

県立病院の看護師になると勤務地はどうなるのか。

（事務局）

採用試験時に、希望や事情を確認したうえで配属先を決定している。

（委員からの質問）

姫路循環器病センターについて、病院が統合されると病床数は増加するのか。

（事務局）

医療圏域単位で病床数が決まっており、統合後の病床数もその範囲内となる。両方の病院のベット数の合計が基本となるが、多少減となる場合もある。

（委員からの質問）

看護師の離職率は高いというが、やはりなかなか続かないのか。病院間で取り合いなのか。

（事務局）

実際に働いてみて思っていたものと違うということで離職する場合や、規模の小さい病院では出産を機に辞める場合がある。新設病院は人は集まりやすいが、新しく採用した者がその後育休を取得したため、看護師の非稼働率が高くなることもある。医師も含めて医療技術者全般にいえることだが、結局は人材の取り合いになってしまう。

報告事項 3

任命権者が行った処分

任用課長が、教育委員会が行った1件の懲戒処分内容及び理由を説明した。

閉 会